

## 米国におけるコミュニティ・オーガナイザーの役割

日本学術振興会／同志社大学大学院 室田信一（会員番号 2171）

<shin1@stirps.net>

### はじめに

◆今、アメリカで最もホットな職業！？

“Community Organizing Never Looked So Good” (New York Times, 2009/4/12)

### ◆本研究の命題

コミュニティ・オーガナイザーという「専門職」はどのように成立し、どのように発展してきたのか。これからどのような発展を遂げようとしているのか。ソーシャルワークを中心軸として考察。

→日本における地域福祉専門職開発の視座

(おことわり：社会福祉における専門性に関する議論は、本研究における柱の一つではあるが、本研究がそうした議論の延長線上にあるものではない。)

### 1. 本研究が取り扱う範囲

◆オーガナイザーといっても様々である。

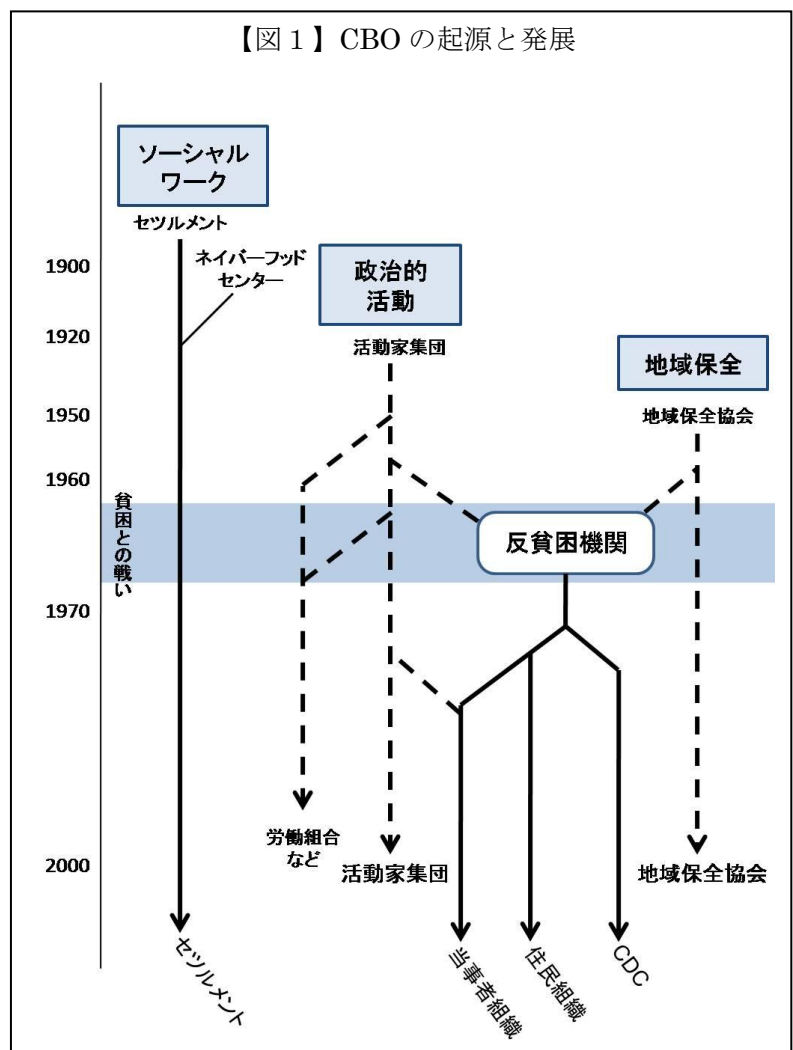
➤ 代表的なオーガナイザー：

オバマ大統領、ハーヴェイ・ミルク、(マハトマ・ガンジー)、キング牧師、ローザ・パークス、スタントン・コイト、ジェーン・アダムズ、マイルズ・ホートン、パウロ・フレイレ、セザー・チャベス、ソウル・アリンスキー、フレッド・ロス

◆主としてコミュニティ・ベースト・オーガニゼーション (CBOs) に所属し常勤として勤務するコミュニティ・オーガナイザーが本研究の対象。

CBOとは、地域を基盤として活動する団体の総称。法的に位置づけられた名称ではないが、政府による事業を受託する団体に対してCBOであることを条件として盛り込むことが少なくない。CBOは非営利組織であるとはかぎらない。

労働運動、社会運動→新しい社会運動



◆「新しい社会運動」

- 60 年代後半以降、西側の発達した資本主義社会において展開されている、各種の市民運動やエコロジー運動、青年運動、フェミニズム運動、平和運動など、生活領域を舞台とした一連の社会運動（山口 1985:15）。
- 「ハーバースマやオッフエによって『生活世界の植民地化』とか『国家の市民社会への侵入』と呼ばれた脅威に対する抵抗」（高橋 1985:5）。
- 「産業生産の場をその主たる展開の場としない」（山口 1985:15）。
- 「運動の多くが社会構造の中で占める位置は決してマージナルなものではなく、その担い手や支持者もまた、社会の周辺層から補充されるというよりは、〈システム〉を管理運営していく上で中心的な役割を果たしつつある集団から補充されている」（Ibid.:27）。
- フィッシャー（Fisher, R.）による整理、1）コミュニティを基盤としている、2）クラスや文化的アイデンティティの壁を越えた集団によるもの、3）イデオロギーによる連帯を否定するが、ネオ・ポピュリスティックなイデオロギーを共有している、4）文化的・社会的なアイデンティティの克服が主たる課題である、5）政府の介入を否定し、自助とエンパワーメントを主要なアプローチとする（Fisher 1994: 217-8）。

◆学際的な領域：都市計画、法学、政治学、社会学、経済学、商学、保健学、教育学など。

2. コミュニティ・オーガナイザーの定義の試み

◆そもそもコミュニティ・オーガナイザーを対象とした研究は希少である→輪郭が明確でない。

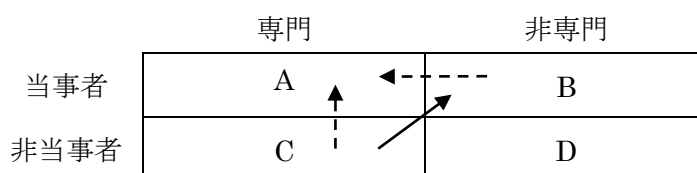
- ミズラヒの調査結果から：その業務内容は多岐にわたる（Mizrahi 1998:10）。
- アリンスキーの見解：「高い創造力を有する建築家であり技術者である。」「特定の支持者や地理的コミュニティに制約を受けることなく、必要な変革とその実現可能性についてビジョンを提供する存在」（Alinsky 1971: 65）。
- 「変革のための触媒」「助産師」「イネーブラー」「ファシリテーター」「リーダー（？）」

◆住民・当事者の組織化に含まれる内容

- 住民参加を促進する＝扇動役、動員役という言葉。
- コミュニティ・オーガナイズングおよび類似する（援助）技術を用いる。
- フェミニスト・アプローチやエンパワーメント・エデュケーション、コミュニティ・ビルディングなど個人的なつながりと社会的なつながりを重視するアプローチの登場。

3. 当事者性と専門性

◆「専門性」の確立と専門職批判の中で



- アリンスキー：ソーシャルワークの大学院でコミュニティ・オーガナイズングを学んだオーガナイザーたちはフロイトの幻想を思い描いているにすぎず、四本足のネズミを撃退して終わりだが、我々はその次に二本足のネズミをも退治する。(Alinsky 1971:67-8)
- セツルメントにおけるソーシャル・アクションの導入とリーダーシップの変容→ソーシャルワークのラディカル化 (Trolander 1987:65-7)。
- ロスマンによる「3つのコミュニティ・オーガニゼーション実践」(Rothman 1968)

#### 4. ジェンダー

- ◆フェミニスト・アプローチの確立から協働へ
- スタントン・コイトによるギルド型とジェーン・アダムズによるサービス型(Trolander 1987:63-4)。
- 福祉権運動、フェミニスト運動：フェミニストの視点の強調
- フェミニスト・アプローチ：力 (power) の獲得ではなく、力の共有。結果 (product) 同様、過程 (process) にも価値を置く (Eichler 2007:5-6)。
- 近年の女性オーガナイザーの考え方における変化 (Mizrahi 2006)。

#### 5. 財源

- ◆兼業と専業
- セツルメント (民間財源) →反貧困機関 (連邦政府財源) →地方分権化・福祉の民間化

- ◆民間財源の増加

- 民間による寄付の推移 (単位：億ドル、なお 1 億ドル≒100 億円)

	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008
金額	19.4	34.3	60.3	86.8	122.6	275.6	364.0	456
貨幣価値変動後	19.4	22.4	30.1	35.7	43.3	86.1	100.3	N/A

- 2007 年の補助金額約 216 億 5000 万ドル (約 2 兆 1650 億円) のうち、約 23 億 5800 万ドル (約 2358 億円) が”Public Affairs/Social Benefit”の活動助成に充てられた→内訳は”civil rights and social action, community improvement and development, philanthropy and voluntarism, public affairs”となっており、コミュニティ・オーガナイザーを雇用するための財源の一部となっている。
- その他に、会費によってコミュニティ・オーガナイザーを雇用する団体も少なくない。
- CSWE の統計によると、2004 年時点、全米のソーシャルワーク大学院において 730 人がコミュニティ・オーガニゼーションを専攻し、同様の実習をおこなう学生を含めると約 4500 人 (全体の約 12%) がコミュニティ・オーガニゼーションに関わっている→しかし、雇用の機会が乏しい。

#### 6. 今日のコミュニティ・オーガナイザー (ケース・スタディ)

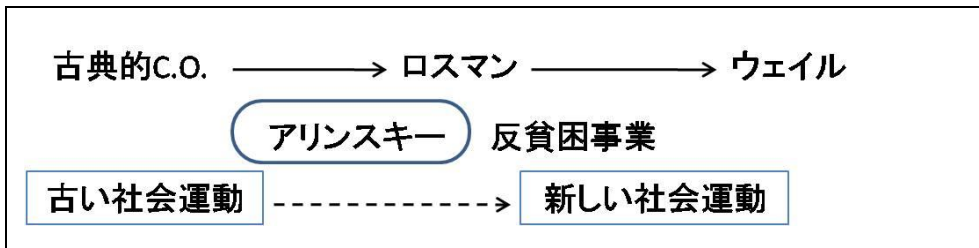
- ◆ケース・スタディ (Initiative for Neighborhood and Citywide Organizing、以下 INCO)
- 2003 年、ニューヨーク市で立ち上がった事業。民間財源を用いて、ニューヨーク市内に 15 人のコミュニティ・オーガナイザーを雇用するという事業。住宅問題を取り扱うという共通のアジェンダを掲げているが、住宅問題に関わらず、多様な課題を対象として活動している CBO が選ばれた。

◆INCO コミュニティ・オーガナイザーの特徴（13人に対してインタビュー調査を実施）

- 所属団体の種類（複数回答可）：住民組織7、当事者組織4、セツルメント5、CDC3
- 性別：女性7、男性6
- 教育分野：大学院（ソーシャルワーク、神学、公共政策、美術：各1人）、大学（社会（科）学：5人、リベラル・アーツ：3人、文学：1人）
- きっかけ：専門分野を求めて：5人、一般就職活動を通して：4人、ボランティア・活動家：4人

まとめにかえて

◆コミュニティ・オーガナイズングの変遷とオーガナイザーの役割の変化



- 治療的アプローチからの脱却→ソーシャル・アクションへの傾倒
- 兼業コミュニティ・オーガナイザーから専業コミュニティ・オーガナイザーへ
- 新しい社会運動：エンパワーメントと協働モデルへ
- 岐路に立たされたコミュニティ・オーガナイザー

◆日本における地域福祉専門職への視座

- 激しい専門職批判を受けていないのでは？
- 乏しい民間財源
- 専門性を何とするか

（主な参考文献）

- Alinsky, S. (1971). *Rules for Radicals*, Vintage.
- Fisher, R. (1994) *Let the People Decide*. New York: Wayne Publisher.
- 三島亜紀子（2007）『社会福祉学の〈科学〉性—ソーシャルワーカーは専門職か？』勁草書房。
- Eichler, M. (2007). *Consensus Organizing: Building Communities of Mutual Self-Interest*, Sage Publications.
- Hyde, C. (2005). Feminist Community Practice, In Marie Weil (Ed.), *The Handbook of Community Practice*, Sage Publications, 360-371.
- Mizrahi, T. & Rosenthal, B. (1998). "A Whole Lot of Organizing Going On": The Status and Needs of Organizers in Community-Based Organizations, *Journal of Community Practice*, 5(4), 1-24.
- Mizrahi, T. & Lombe, M. (2006). Perspectives from Women Organizers: Views on Gender, Race, Class, and Sexual Orientation, *Journal of Community Practice*, 14(3), 93-118.
- Mondros, J. B. & Wilson, S. M. (1994). *Organizing for Power and Empowerment*, Columbia University Press.
- Rothman, J. (1968). Three Models of Community Organization Practice, *Social Work Practice*, (96), 16-47.
- Rothman, J. (1996) The Interweaving of Community Intervention Approaches. *Journal of Community Practice*, vol. 3, No.3/4, pp.69-99.
- 高橋徹（1985）「後期資本主義社会における新しい社会運動」『思想』737:2-14.
- Trolander, J.A. (1987). *Professionalism and Social Change: From the Settlement House Movement to Neighborhood Centers 1886 to the Present*, Columbia University Press.
- 山口節郎（1985）「労働社会の危機と新しい社会運動」『思想』737:15-36.
- Weil, M. O. & Gamble, D. N. (1995) Community practice models. In R. L. Edwards & J. G. Hopps (Eds.), *Encyclopedia of Social Work* (19<sup>th</sup> ed., pp.577-593). Washington DC: NASW Press.